

「JENESYS2.0」

2015年度中国高校生訪日団第2陣Bコース

訪問日程 平成27年9月8日(火)～9月16日(水)

1 プログラム概要

中国教育部が派遣した2015年度中国高校生訪日団第2陣Bコース計124名が、9月8日から9月16日までの8泊9日の日程で来日しました。(副団長＝包世華(バオ・シシユア) 四川省教育庁 基礎教育 副調査研究員)

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、訪日団は4分団に分かれ、東京をはじめ、島根県、兵庫県、山口県、奈良県、京都府、茨城県を訪問し、「クールジャパン」を含め、さまざまな分野における日本の魅力、強みを体感したほか、学校訪問・交流やホームビジット・ホームステイ等を通じて、日本の高校生や一般市民との友好交流と相互理解を深めました。

2 日程

9月8日(火)

羽田国際空港より入国

9月9日(水)

オリエンテーション

第1・4分団：東京外国語大学訪問

第2・3分団：浅草寺見学，そなエリア東京視察

歓迎会

9月10日(木)

第1分団：島根県へ移動，石州和紙紙漉き体験，松江城見学

第2分団：兵庫県へ移動，神戸大学訪問

第3分団：奈良県へ移動，奈良教育大学訪問

第4分団：山口県へ移動，岩国市危機管理視察・錦帯橋・岩国城見学

9月11日(金)

第1分団：島根県立大東高校訪問・交流

第2分団：兵庫県立長田高校訪問・交流

第3分団：奈良学園登美ヶ丘高校訪問・交流

第4分団：山口県立華陵高校訪問・交流

9月12日(土)

第1分団：ホームビジット

第2分団：姫路城見学，茨城県へ移動

第3分団：東大寺見学，ホームステイ

第4分団：ホームビジット

9月13日(日)

第1分団：出雲大社見学，東京へ移動

第2分団：ホームビジット

第3分団：ホームステイ，東京へ移動

第4分団：京都府へ移動，嵐山・鹿苑寺（金閣寺）見学

9月14日（月）

第1・2分団：東洋大学附属牛久高校訪問・交流

第3分団：茨城県立取手第一高校訪問・交流

第4分団：京都府立南陽高校訪問・交流

9月15日（火）

第1分団：そなエリア東京視察，商業施設視察，歓送報告会

第2・3分団：明治神宮見学，商業施設視察，歓送報告会

第4分団：東京へ移動，商業施設視察，歓送報告会

9月16日（水）

羽田国際空港から出国

3 写真

	
<p>9月9日 オリエンテーション（東京都）</p>	<p>9月9日 「地震被害と都市防災」岩楯徹広 首都大学東京名誉教授/上海交通大学客員教授によるセミナー（東京都）</p>
<p>9月9日 概況説明（東京都）</p>	<p>9月9日 “地震灾害与城市防灾”岩楯彻广 首都大学东京 名誉教授/上海交通大学 客座教授 专题研讨班(東京都)</p>
	
<p>9月9日 東京外国語大学訪問（東京都）</p>	<p>9月9日 そなエリア東京視察（東京都）</p>
<p>9月9日 访问东京外国语大学(東京都)</p>	<p>9月9日 考察防灾设施区域（東京都）</p>
	
<p>9月9日 歓迎会 日中の高校生ら（東京都）</p>	<p>9月9日 歓迎会 中国高校生のパフォーマンス（東京都）</p>
<p>9月9日 欢迎会上日中高中生合影(東京都)</p>	<p>9月9日 欢迎会 中国高中生的表演(東京都)</p>



9月10日 石州和紙紙漉き体験（島根県）

9月10日 体験石州和紙の抄制（島根県）



9月10日 松江城見学（島根県）

9月10日 参观松江城（島根県）



9月10日 神戸大学訪問（兵庫県）

9月10日 访问神戸大学（兵庫県）



9月10日 奈良教育大学訪問（奈良県）

9月10日 访问奈良教育大学（奈良県）



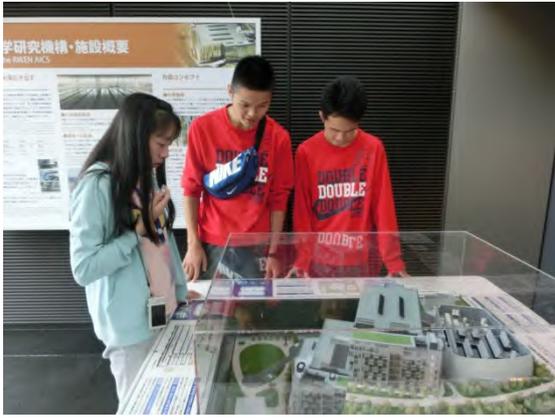
9月10日 岩国市危機管理視察
錦帯橋、岩国城見学（山口県）

9月10日 岩国市考察危机管理
参观锦带桥和岩国城（山口县）



9月11日 島根県立大東高校訪問・交流（島根県）

9月11日 访问岛根县立大东高中・交流（岛根县）

	
<p>9月11日 国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構視察（兵庫県）</p>	<p>9月11日 兵庫県立長田高校訪問・交流（兵庫県）</p>
<p>9月11日 国立研究開発法人理化学研究所 考察計算科学研究機構（兵庫県）</p>	<p>9月11日 访问兵庫県立长田高中・交流(兵库县)</p>
	
<p>9月11日 奈良学園登美ヶ丘高校訪問・交流 （奈良県）</p>	<p>9月11日 山口県立華陵高校訪問・交流 （山口県）</p>
<p>9月11日 访问奈良学園登美丘高中・交流 （奈良县）</p>	<p>9月11日 访问山口县立华陵高中・交流 （山口县）</p>
	
<p>9月12日 ホームビジット（島根県）</p>	<p>9月12日 姫路城見学（兵庫県）</p>
<p>9月12日 家庭访问（岛根县）</p>	<p>9月12日 参观姬路城（兵库县）</p>

	
<p>9月12日 東大寺見学（奈良県）</p>	<p>9月12日 ホームステイ（奈良県）</p>
<p>9月12日 参观东大寺（奈良县）</p>	<p>9月12日 入住家庭（奈良县）</p>
	
<p>9月12日 ホームビジット（山口県）</p>	<p>9月13日 出雲大社見学（島根県）</p>
<p>9月12日 家庭访问（山口县）</p>	<p>9月13日 参观出云大社（岛根县）</p>
	
<p>9月13日 ホームビジット（茨城県）</p>	<p>9月13日 嵐山・鹿苑寺（金閣寺）見学（京都府）</p>
<p>9月13日 家庭访问（茨城县）</p>	<p>9月13日 参观岚山和鹿苑寺(金阁寺)（京都府）</p>

	
<p>9月14日 東洋大学附属牛久高校訪問・交流 (茨城県)</p>	<p>9月14日 茨城県立取手第一高校訪問・交流 (茨城県)</p>
<p>9月14日 访问东洋大学附属牛久高中・交流 (茨城县)</p>	<p>9月14日 访问茨城县立取手第一高中・交流 (茨城县)</p>
	
<p>9月14日 京都府立南陽高校訪問・交流（京 都府）</p>	<p>9月15日 明治神宮見学（日本人ボラン ティアと散策）（東京都）</p>
<p>9月14日 访问京都府立南阳高中・交流（京 都府）</p>	<p>9月15日 参观明治神宫（与日本人志愿 者散步）（东京都）</p>
	
<p>9月15日 歓送報告会（東京都）</p>	<p>9月15日 歓送報告会（東京都）</p>
<p>9月15日 欢送报告会（东京都）</p>	<p>9月15日 欢送报告会（东京都）</p>

4 参加者の感想（抜粋）

○ 今回の訪問のテーマは防災でした。私が関心を持っていたポイントは、日本の人々の防災に対する考え方でしたが、びっくりしたのは、日本の人々が緊急時の対応の仕方を特に考えていないことでした。実はこれらのことは日本の人々は日常生活の中ですでによく知っていて慣れていることなのです。例えば、日本の人々はエスカレーターに乗るとき、自然に一列に同じ側に並んで立ちます。こうすれば急な用がある人は、早く通ることができ、時間をロスすることがありません。似たような例はまだまだたくさんありますが、これらのことは政府の役人が毎日宣伝して、指導しているわけではなく、国民全体の自覚的な行為なのです。私は帰国してから、このような行動パターンを宣伝することに努め、皆に「他人に迷惑をかけない」ということを自覚してもらうようにしたいと思います。

今回の訪日の旅が本当に多くの収穫を私に与えてくれたことを感謝します。

○ まず始めに今回、公益社団法人青年海外協力協会と日本政府の私たちに対する接待と行き届いた御配慮にとっても感謝いたします。

いろいろな防災および災害を減らすための講座は得るところが大であり、私は学んだいろいろな知識を自分の級友や友達および家族に伝えるつもりです。天災は避けがたいものですが、私たちができるのは天災が私たちに及ぼす災害を避けることです。実は私たちの意識を少し変える必要があると思います。災害が襲って来たとき、まず最初に自分を助ける必要があり、自分を守るという意識を持たねばなりません。それと普段の生活や社会活動の中で、私たちは防災訓練に定期的に参加しなければならず、その際に、これは本当の災害ではないと勝手に軽視したりしてはいけません。私たちは普段からたくさん訓練し、経験をたくさん積んでこそ、災害が本当に来たとき、整然として慌てることなく災害から逃れることができるのです。

○ 私が最も印象深かったのは日本の高校を訪問したことです。

私は日本の教育方式を体験し、日本の生徒の暖かさを感じると同時に学校側の暖かい接待も受けました。私たちの言葉は違いますが、私たちは彼らと楽しく交流することができ、彼らの魅力を感じることもできました。また多くの日本の友人もできました。

私たちは日本のクラブ活動についても知ることができました。彼らのクラブ活動はとても素晴らしいものでした。生徒たちが全ての面で成長できるように正しく科学的に行われており、私は中国の教育レベルはずいぶん劣っていると思いました。日本で私は勉強には二つの楽しみがあると思いました。

私は帰国してから自分の家族や友達に日本はとても良い国で、人々はとても暖かく、環境の保護もとても良いということを伝えるつもりです。教育の質と方式もとても良いと思います。また、私は自分の家族や友達に日本へ旅行に行くことを勧めるつもりです。

○ 日本は秩序が整然としている国です。日本人はものごとを少しも疎かにせず、真面目で細心です。自然災害や突発の事故などに対しても、とても理性的で冷静に対応しているように見えます。文化の面では、日本と中国は少し似たところがあり、またそれぞれ長所があります。そして日本は「礼儀と尊重」をととてもよく体現しており、これは私たちが手本として学ぶに値するものです。日本は先進国として資源管理、環境保護の面でも特に関心

を払っています。私たちの中国もそうなる日が来るように願っています。人間関係の面では、日本人は温かく、また度が過ぎることもないようで、日常生活の面では、日本人は大らかでつつましいと思いました。要するに、日本は快適さを感じさせてくれる国であり、一人の中国人として、私は自分の故郷が好きだし、日本も大好きです。

○ 今回の日本訪問の活動の中で私が一番印象深かったのは国民の資質です。

彼ら日本人は文化教養、道徳品行がみな良く、例えば道路を横切るときには、青になってから横切ります。しかし、中国ではかなりの人が交通規則を守らずに道路を横断します。また日本人は誰もがとても礼儀正しく、誰かに会うと声をかけて挨拶をしたり、頭を下げて挨拶をします。これは私たちが学ぶべき点です。日本は小さいけれど、科学水準が高く、経済発展が速い。これらのことは私たちが学ぶべき点です。また最も重要なのは彼らの防震対策です。彼らの防震意識はとても高く、順序立っていて、地震に遭っても慌てません。これこそ最も大切なことです。彼らの耐震建築も有名で、地震の災害を減らす措置を施し、耐震ビルを建てています。また非常階段がほとんどのビルにあり、ビルがどんなに高くても登って行き、逃げて命を守ることができます。私はもっと多くのことを知りましたが、ここでは一つ一つの例は挙げません。いずれにしろ今回の海外訪問により両国間の関係はさらに友好的になり、私も多くの知識を学びました。

○ 最も印象深かったのはホームビジットと学校訪問・交流です。日本の家庭の私に対する行き届いたおもてなしにとっても感動しました。日本のお父さんは私を本屋へ漫画を買いに連れて行ってくれ、公園を散歩したり、ビルの25階からの風景を見に連れて行ってくれました。日本のお姉さんは私たちのためにカレーやコーヒー、小籠包を心を込めて作ってくれ、緑茶を入れてくれ、日本の茶道の深さを感じさせてくれました。彼らは私のために多くのことをしてくれましたが、私は彼らのために何もできませんでした。別れの際に、彼らは私に向かってしきりに手を振ってくれ、本当に辛さと感激が入り混じった気持ちでした。学校では予想していたような気まずさはありませんでした。日本の生徒は私に対してとても友好的で親しみを込めて挨拶してくれ、交流してくれました。不愉快になったり慣れないといった感じはなく、このような教育方式が好きになりました。帰国した後、今回の訪問活動で感じたこと、思ったこと、見たこと、聞いたことを家族、級友、友達に伝えたいと思います。中日友好は日出る東方の地で燦燦と光り輝くことでしょう。

○ 今回の日本訪問は、収穫がとても多く、成果が山のようにありました。最も印象深かった事を挙げるとすれば、私は次の二つの事を選びます。①高校訪問、②ホームステイ体験。まず大東高校と牛久高校のことを話しましょう。私は日本の一日の教育を体験しましたが、中国とはとても違って、いろいろなクラブ活動は学校生活の無味乾燥さを感じさせません。好ましくてやさしい日本の生徒たちの顔にはあどけない微笑が浮かんでいて、私たちは嬉しくなりました。私はたくさんの日本の友達と知り合いになりました。Mさん、Yさん、Nさんの三人のすばらしい日本の女生徒は、私に日本のうどんの作り方を教えてくれました。牛久高校の歓迎会ではO.Jさん、Hさん、O.Hさんの三人の生徒と知り合い、O.Mさんとは親友になりました。私たちは連絡先を交換し、連絡を取り合うことにしました。このことによって私の英語は早く進歩するかも知れませんが、私にもっと多くの日本語を学

ばせてくれ、日本という国の文化や学習方式がもっと分かるようにしてくれることでしょう。ホームステイ体験の中で、Sさんは私たちを海を見に連れていったり、湖畔を散歩しに連れて行ってくれました。彼女の家には古風な学者の家柄の雰囲気がありました。彼らは3週間前から準備してくれ、晴れの日の計画も雨の日の計画も立てていたということを知ったときには、感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。これが私が体得した日本と日本人であり、私が伝えたいこと、周りの人に伝えたいことでもあります。これは日本人の身体に染み込んでいる礼儀と暖かい心情、愛らしさと活発さなのです。日本には私たちの国が学んで改善すべきところがたくさんあります。日本人は私たちがお手本にすべきことをたくさん持っています。現在、私たちが中日友好のためにできることは多くはありません。今後、私は日本という国にまた来て、たくさんの本を読み、いろいろな所に行き、より多くの知識、技術、異なる方式を学びたいと思います。

中日友好がいつまでも続きますように。

○ 今回の訪日の活動は、本当に私に深い感銘を与えてくれ、私の以前の日本についての知識を大きく変えてくれました。私が深く感動したのは以下の四点です。

- ①国民の資質：日本全国の人々の資質が予想外に素晴らしいということです。
- ②経済建設：日本は劣悪な資源しかないのに、日本の経済建設はその発展条件とは大いに隔たりがあり、両極端となっています。資源が少なく、土地が狭いという状況でありながら、経済発展がこのように速いのは、本当に驚くべきことです。
- ③第三次産業の繁栄：日本の第三次産業がこのように繁栄している根本的な原因は、教育と素養だと思います。文化は人の性格などの面にとって大きな役割を果たすものです。
- ④ものごとに対する確固とした意志：日本人の中には積極的に研鑽を積み、積極的に困難に立ち向かう勇士がたくさんいます。このことが日本の科学技術の発展、技術革新などによって未来に向かう産業のための確固として強力な支えとなっているのです。

○ 私は今回の貴重な機会を得て、中日青少年交流計画に参加することができ、幸運にも高校生訪日団の一員になれたことをとても嬉しく思っています。この活動は私の日本に対する理解を深め、日本に対する見方を大きく変えてくれました。

歴史的な影響を受け、私はずっと日本に対して排斥的な気持ちを持っていましたが、今回の活動により私はこの要素を完全に拭き去ることができ、この友好的で、礼儀正しく、発展していて、美しい国である日本が本当に好きになりました。

今回の活動の中で、最も印象深かったのはホームビジットでした。午前から、私はほとんど一日中、日本のお父さん、お母さんと一緒に過ごしました。お昼に私たちは一緒に家で昼食を食べ、食後にはおしゃべりをしました。日本のことから中国のことまで、学校のことから家庭のことまで何でも話しました。最後に私たちは一緒にデパートへ買い物に行きました。時間はとても短かったけれど、これらのことはすべて私に他国でのたくさんの暖かさを感じさせてくれました。このことを私は一生忘れることができないと思います。

今回の日本訪問によって私は日本についてより深く知るようになりました。帰国後、私は今回見たこと感じたことを私の家族や友達に伝えます。そして私の周りの人も日本についてもっと理解するようになってほしいと思います。私は中日の関係が益々良くなると信

じています。

また日本に来られるよう願っています。

○ 2015年度中国高校生訪日団第2陣の日本での九日間の日程が間もなく終わろうとしています。この九日間に経験した一コマコマを思い起こすと、感激したことがとても多く、それと共に感動も思い出されます。

日本に来た喜びからだんだんいろいろなことを知り、今日の名残惜しさを感じるまで、日本は私にとって愛すべき国となりました。日本の文化遺跡を参観し、日本の古代史の変遷を知りました。日本の現代科学技術の成果を参観し、日本のしっかりとした実力を感じ取りました。日本の防災や災害を減らすための措置を学んで、日本の人々が知恵を使って大自然に対抗している様子を体得しました。日本の家庭で一日一緒に暮らし、彼らの誠実な気持ち、とても温かく客好きなことは私の心を温かくしてくれました。日本の高校生との交流も忘れることができません。彼らの行き届いたおもてなしはとても嬉しく、一人一人の純真な笑顔は私の頭の中に残っています。中日交流の最も純潔な結晶、それは中日高校生の消えることのない友情です。

日本というこの神聖な土地を去ろうとしている今、離れがたい気持ちでいっぱいです。私はこの九日間の全ての記憶をしっかりと胸に刻みました。これは人生の中で最も光り輝くものとなることでしょう。私は中日友好の未来を祝福し、日本に向かって微笑んで「さようなら」と言いましょう。私は自分の知り合い全員に中日の将来の関係は、より素晴らしいものとなると思おうと思います。

○ 最も印象に残ったのは各学校で出会った高校生です。日本の二つの高校を訪問し、高校生同士交流したり、遊んだり、学習したりしました。岩国では防災、減災について学び、災害予防に対して以前は少なかった知識を多く学びました。私はこれらの防災、保障の意識について両親から聞いたことがありません。同級生たちにとっても防災は印象に残ったと思います。自分を守るための確かで効果の高い方法を私たちは学びました。例えば日本の建物は中規模、大規模の地震に対する耐震性を備え、防災の観点を踏まえて配置されています。自分を守り、相互に助け合う。日本の政府はたくさんの非難場所を設けています。障害を持つ人を含め、人もペットも同様に避難できるようになっています。人と人が助け合い、政府に対して救助を求め、災害時にはテレビ、ラジオ、その他の通信手段によって速やかに避難指示が出されるようになっています。しかし災害を免れるかどうかは個人にかかっています。身近にいる人たちに災害についてさらに強く注意を促し、よりはっきりした認識をもたせることで、実際に災害に遭った時に、より素早く、迅速にどう避難するかを考えられるのです。

○ 今回の訪問で、私は日本をより深く理解することができました。きれいな街、行き届いた手配、受け継がれている伝統文化、興味深いコミュニティ活動などなどです。

帰国後、私は自分の撮った写真や動画を同級生や友達に見せて、日本人の上品な礼儀正しさやかゆいところまで手が届くお世話について話し、日本は一度行ってみるべき価値のある国だと伝えます。

それから私たちがバスに乗る度、受け入れ団体の方がシートベルトをするように注意喚

起してくれ、降りる時も忘れ物のないように注意してくれました。同じ団の高校生がホテルに忘れ物をした時は、調べて速やかに届けてくれました。これらは尊敬に値すると思いました。細やかな対応には敬服します。

また、学校訪問では日本の高校生たちが温かく迎えてくれ、とても親切にしてくれました。私たちはメールアドレスを交換しました。プログラムを終えても連絡を取り合っています。これらのことを友達にも伝え、日本についてより理解してもらおうと思います。

○ 日本はとても発展した国です。今回参加した誰もがそう思いました。中国は、資質をもっと高める必要があると思います。日本では細心の注意を払われています。日本に来てとても調和がとれている社会だと私は思いました。ここでは政治のことを話すつもりはありません。私はただ、平和を望み、日本のような調和のとれた社会を望みます。中国と日本は一衣帯水の隣国です。私は中日両国の友好関係が永遠に続くことを期待します。

日本の街では、ほとんどゴミ箱をみかけません。ゴミを捨てようとする度に私はどうしたらよいかわかりませんでした。中国ではゴミ箱はどこにでもあります。このことからわかるのは、日本人の出すゴミは少なく、だから町がとても清潔で空気もきれいだということです。日本の水道水は直接飲むことが出来ます。このことから、日本の水処理技術が非常に高いことがわかります。このような技術はお互いに学ぶことが出来ると思います。ただ私たちが謙虚な気持ちを持ちさえすればよいのです。最後の数日間に、私たちはいくつかの工業地域を訪問しましたが、古くても環境はとてもよく、近くに公園があり、とても美しく、そこでの生活はとても快適だと思えました。私は中国が荒地を開発し、自然保護区を作り、緑豊かな地域を作ることを希望します。私の周りの多くの人が「日本製品ボイコット」を叫んでいますが、そういう人たちはみんなが中国製商品を買わない理由を考えたことがあるのでしょうか。誰がまた国を愛さなくなるというのでしょうか。技術の高い商品が販売のために展示されています。日本車の性能は安定しています。これは口先だけでいうものではありません。人は絶えず努力し続け、自己研鑽しなければなりません。その結果としてより良いものが作れるのです。中国の人たちが安心して国産品を使えるようになるのです。日本ではほとんどすべての車が日本製でした。これが実力です！

私は日中両国が平和に発展し、一緒に努力し、人々を更に幸福にし、世界をもっと平和にすることを希望します！

○ ホームステイで訪れた家はIさんというおばあさんのお宅でした。Iさんは豊かなだけでなく、とても気前がよい方でした。Iさんは私たちを博物館に連れて行ってくれました。鹿せんべいの製造工程を見学し、警察署で剣道を見学しました。

Iさんは英語が話せませんが、聞いてわかることもあります。Iさんの家での最初の食事はカレーライスと和牛でした。本当にとってもおいしかったです。その後、Iさんは私たちがパジャマを持っていないと聞いて、パジャマを私たちに持ってきてくれました。また私たちに着物の着付けの体験をさせてくれました。Iさんに私たちが買い物に行きたいと言うと、私たちをバスに乗せて、高の原に買い物に連れて行ってくれました。私はとても感動しました！

それから私たちが感動したのは、奈良に着いた日の土曜日に一緒にいた高校生が手紙を書きたいと言うと、切手を買うために、悪い脚を引きずりながら郵便局に連れて行ってく

れましたが、まだ開いていなくて、とても心配してくれました。私たちは有り難く思い、もう大丈夫ですと何度も言ってようやく I さんは私たちと帰りました。

いつもお世話になりました！（※日本語）

大使館の皆さま、公益財団法人 日中友好会館、公益社団法人 青年海外協力協会の皆さま、私たちを受け入れてくれたホームステイの家族、学校の皆さま、私にこんなに美しい旅をさせてくれ、どうもありがとうございました。

○ 今回の9日間の訪日プログラムで私が感じたことはたくさんあります。また更に日本という国を理解することができました。

日本は発展国です。日本の都市には高層ビルが林立し、見上げれば壮大な景観で、途中車中から東京のシンボルである「東京タワー」と「東京スカイツリー」を見ることができました。日が暮れると明かりが灯り、とても美しい光景でした。東京の街中では出勤に忙しいサラリーマンを見かけました。サラリーマンの生活リズムはとても速いです。このことは高校の生徒たちの学校生活でも感じました。生徒たちにはほとんど昼休みの時間がなく、多くの生徒が弁当を持ってきていて、教室で食べていました。

日本は島国です。海産物が豊富で、普段の食卓にも並びます。日本人は日常的に好んでお茶を飲み、食事には豆腐、刺身、生の海老などがよく出されます。これは私たちが中国で普段食べているものとは違います。日本の食べ物はほとんどがあっさりした味付けで辛いものは少ないです。ですから日本の食事は私たちの口に合うものではありませんでした。日本では西洋料理を食べることもあります。食事の前にはサラダが出て、食後にフルーツやデザートが出ます。

日本は火山が多いので、多くの天然の温泉がありますが、日本の温泉と中国国内の温泉は違います。中国の温泉は水着で入ることができますが、日本では全裸で入らなければなりません。

日本は中国とは違うところがまだたくさんあります。私たちが探しに来るのを待っているのです。

○ 日本では中国と違うところを私はいくつも感じました。最も印象に残ったことはやはり日本人が友好的で礼儀正しいということでした。日本の高校を訪問した時、生徒たちはみんな温かく私たちの訪問を迎えてくれ、授業中なのにみんなが私たちに手を振ってくれました。私は調理実習に参加して、日本の生徒と先生と一緒にうどんを作りました。言葉での交流は少し難しかったけれど、私たちが友好的に交流するのに全く問題はありませんでした。校内では生徒が私たちを見かけるとみんな丁寧にお辞儀をし、学校を離れる時には、生徒たちが私たちに手招きしてバスのところまで来てくれ、その視線に見送られてバスに乗りました。日本人の友好の気持ちと礼儀正しさの表れだと思いました。それから私の印象に深く残ったことは、清潔ということでした。街には可燃ゴミは見当たらず、紙のゴミの塊などは一度も見かけませんでした。ホテルも静かで快適で、当然清潔でした。水道の水は直接飲むことができました。中国に帰国したら、私は必ず友達に日本の友人の友好的で礼儀正しいことと日本の清潔さを伝えます。もちろん日本の伝統文化、生活習慣についても、日本で体験した安らかさ、静かさも伝えます。最も伝えなければならないことは、中日友好のことです。日本人を理解し、二度と日本人を嫌ったりせず、壁を作らず、中日

友好について正確に認識すべきだということです。そして自分のできるだけだけの貢献をすることです。

○ 日本人の真面目な仕事ぶり、謙虚で礼儀正しい態度。日本では、空港でもホテルでも学校でも全ての人がとても礼儀正しかったです。別れるときはみんなが立って手を振り、日本人の顔にはいつも親切な微笑があります。街に行く人も同じです。秋葉原で買い物をしている時、私たちは何度も道を尋ねました。英語がわからないにもかかわらず日本の人は辛抱強く道を教えてくれ、中には地図を持ってきてくれたり、住所を書いてくれたりした人もいました。日本人が時間に正確なのは有名ですが、時間を守るだけでなくとても勤勉です。毎日朝早くに出勤し、夜は8, 9時までオフィスビルの明かりが灯っています。それは残業している人がいるからです。日本の生徒もとても努力しています。私は日本の生徒は家に帰ったら遊んでいるのだと思っていましたが、日本の学校の生徒に聞いて初めて夜11時まで一生懸命勉強しているのだと知りました。これらは私たちが学ぶべきことだと思いました。

○ 今回の訪日プログラムで私の最も印象深かったことはホームステイです。日本の一般家庭を訪問したことで、私たちは日本の文化や習慣をより深く体験することができました。古い伝統のある小さな庭、緑あふれる植物園、心地よく清潔な畳、精密で興味深い寿司作り、優雅で美しい日本の茶道。どれもいまもなお思い出します。ホームステイの交流で日本人の日常生活を広く理解することができました。

帰国後、私は自分の見聞きしたことを周囲の友達や家族に伝えます。そして日本人の豊かな生活と優雅で美しい文化を理解してもらいます。みんながもっと日本に行きたいと思うように。

○ 君、長江に来る。我もまた行く。感動を分かち合えば、幸せなり。これが幸せなり。礼は桜に似て、謙虚さは柔らかい。柔らかはきめ細やかで、いつまでも変わらない。扇子の絵を愛することは、江南の河水を表す。長く続く情は深く、深さは波を伴う。私に本当の縁があることを知れば、刀が重なり合うごとく染み入る。けれども足下に名を刻み、再来し、後悔するまい。津波のごとく震え、君は泰山の如し。松は悠久の如し、水は万世の如し。君は知るや。吉兆を聞く。行先はここに到る。ここは碁盤の平なり。頻繁に食するごとく震え、君は静かに生きる。江南の河水の静かさのごとし。情は冬の雪のごとく好し。好きな感情は二度と来ない。よき縁は再び来る。これはどこで咲くのか。君は知らずや。君が泣くのを見た。君の再来を望む。君のために洗う。再来を強く望む。情は再び甦る。君は高い山のごとく、君は遠く流れる水のごとし。君がわが家に来て、歓談し、私の寒さを暖め、私の乱れを治めることを望む。君が来たら、歓待しよう。虹のように迎え、春を喜ぶように。蠟燭の火が消えればまた点け、将棋盤に影を落とす。時間に終わりはある。雨が降って池が出来る。蠟燭の火が落ち、心に影を落とす。君はすなわち私の待ち人の貴賓なり。時間に終わりがあるのを知る。君の部屋を虚しく守る。君はいずこに泊まるや。君に訊ねる。私は君と飲み交わしたい。君は私の気持ちを知るや。終わりの時が近づき、雪を作るがごとく震える。最後にわかり合い、君と調和する。

私たちが訪れた学校、生徒たち、文化施設に敬意を表します。また中日友好と平和的な発

展を心から願い、日本の先進的なところを学びたいと心から思います。

○

- A. 防災について。中国でも人々の安全意識を高め、社会においてさらに安全と救急救命の意識と知識を高め、専門員を養成し災害時の避難訓練をする必要があると思いました。中国の全ての階層の人たちが積極的に参加し、国民の安全や危機管理意識を高め、他人を助ける意識を高めなければなりません。災害対策では力を合わせ積極的に飛躍的な改善をする必要があります。
- B. 教育分野でも中国が改善すべきところがあると思いました。私たちはもっと頭と体を動かして創造力を育成するべきです。日本では多くの生徒が部活動を行っています。私たちが羨ましがらせた剣道部、弓道部、ハンドベル部、柔道部、バドミントン部、バレーボール部などです。少し目が眩むほどでした。これらの部活動は私たち生徒の生活を豊かにするだけでなく、生徒たちが一緒にいる時間を与えてくれ、魅力的です。
- C. 環境保護について。私は中国は日本に学ぶべきだと思います。日本は資源の少ない国ですが、回収、節約の質が高く、リサイクルを可能にしています。中国もこの点では伝統的な美德がありますが、中国は広く、人々が安心して生活してはいませんので、環境保護と資源の節約をより強調し、実行すべきだと思います。
- D. 今回の訪日で日本の同世代の生徒と一緒に学び、部活動に参加しました。たどたどしい英語で交流し、友好の芽がすぐに育ってきたと感じています。日本の生徒たちは頑張っていて真剣に耳を傾け、私たちの話を聞いてくれ、私たちが熱心に助けてくれました。私たちはとても感動しました。私たちはみんな連絡の方法を交換しました。一生の思い出になりました。貴重な友情をずっとつないでいきます。
- 最後に今回のプログラムのために世話を下さった先生方、親愛なるコーディネーターと通訳の方々に感謝申し上げます。お疲れ様でした。私たちは使命を果たし収穫がたくさんありました！

○ 初めて日本に着いたとき、ちょうど台風9号が来ていて雨でした。街を歩いている人たちを見ていると赤信号を守っていました。誰も信号を無視して渡る人はいず、並んでいました。中国では信号無視をよく見ます。きちんと赤信号に並んでいることはありません。中国にはまだ改善しなければならないことが多くあります。

10日に岩国市危機管理課を訪問しました。講師の先生の説明がわかりやすく詳細でした。日本の防災について詳しく説明を聞きました。日本人の危機意識は小さい頃から育成されています。自助、互助、公助の3つです。この点で、中国では政府の援助を期待するところが大きく、中国は頑張らなければいけません。

私の印象に最も残ったのは東京外国語大学を訪問した時に中国からの女子留学生が話してくれたことでした。中国は日本人の目で見ると、発展国だそうです。中国はまだ途上ですが、一つの強国です。

中国は古来から和を尊ぶ国です。中日両国は一衣帯水の隣国です。私は中日関係が緊張状態にある中で、私たちと日本の生徒たちの交流が日中関係にとって少しでも貢献できればいいと思います。

中日の友好の一步を更に進めましょう！